

道徳科学研究フォーラムin東海 「歴史問題を考える」を開催

東海ブロック／道徳科学研究所



三月二十一日、「道徳科学研究フォーラムin東海」(主催：東海ブロック／道徳科学研究センター(現：道徳科学研究所))を、中日生涯学習センターで開催しました。今回は、会場参加とオンライン参加を併用して行い、合計百四十四名が集いました。

はじめに、西岡力教授が、「平成時代に『過去の日本たたき』が広がった理由」と題して基調講演を行いました。西岡教授は、平成が始まった一九八九年前後は、世界にとって激動の時代で



西岡教授

かを考えることにつながる。歴史認識は国によって違って当然であるのに、平成の時代は、日本のマスメディアから出た誤報を中国や韓国が取り上げ、外交問題に発展させるといって、反国家主義的思想が日本を次第に蝕んできた。私たちはそのような風潮を改め、「伝統を守る」とか「先人を尊敬する」といった道徳的価値観を大切に、一歩ずつ人類の普遍的価値である「自由」「民主主義」「法の支配」を世界に広げ、共有していく必要がある。このような「漸進主義的文明論」がこれからは重要であり、それがモラロジーを通じて廣池千九郎が示そうとしたところと通ずるのではないかと述べました。

あり、その時代になって「なぜ日本叩きが始まったのか」を学ぶことが、令和の時代に私たち自身がどう生きてらよいか



モーガン客員研究員

ジェイソン・モーガン客員研究員は、西岡

教授の講演を受けて、アメリカでは日本以上に「反国家」「反民族」などの「主流派は悪である」とする思想が広がっており、軍隊教育の中でも反米教育が行われるという、恐るべき状況が進んでいる。

そして「反国家主義」と「超国家主義」がつながり、中国のスパイが政界や経済界の中心人物と手を結んでいるという事実を知らなければならぬと述べました。



川久保主任研究員

川久保剛主任研究員は、二人の発表を受けて、これからの学校教育で「どのように道徳教育を推進していくべきか」という点を問題にし、現在の学習指導要領の記述を改め、市民の徳を涵養するシチズンシップ教育・主権者教育を推進すべきだと説きました。

その後の全体討論では、会場やオンライン参加者からの質問も交えながら、三名の登壇者との間で熱い意見交換が行われ、充実した研究フォーラムとなりました。